

2020.08.05

## 【米国】新型コロナ禍の通信サービス提供、無線 ISP1 社当たり 2 万ドル超の負担

無線 ISP 協会（WISPA）に加盟する事業者を対象に行った非公式アンケート調査によると、新型コロナウイルス流行中も加入者に通信サービスの提供を継続するために、一部の事業者がかなりの負担を強いられていることが分かった。

連邦議会では、このパンデミック中に通信サービスを提供する事業者を補償すべきかどうかについて議論が交わされているが、WISPA もこれを受け、6 月 23 日、FCC の「Keep Americans Connected」誓約に署名若しくは自主的に従っている WISPA メンバー 800 社に非公式調査を実施。

調査結果によると、同誓約が終了する 6 月 30 日までの間に、料金支払いが滞っている加入者へのサービス提供継続で、ISP1 社が負担する費用は約 2 万 5,000 ドルに上る。

誓約に署名する電気通信事業者は、料金滞納契約者へのサービスを継続する以外にも、延滞料金の免除、Wi-Fi ホットスポットの無償提供も約束しており、今回の調査では、WISPA メンバー 1 社が抱える滞納料金の平均額は 3,200 ドルで、Wi-Fi ホットスポットやその他のブロードバンド・サービスの無償提供にかかる費用は平均 4,500 ドル超だった。

アジト・パイ FCC 委員長も、このような負担は承知しており、連邦議会に対して負担の肩代わりを求めている。